

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：34314

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530787

研究課題名(和文) 東アジアの高齢者自殺問題とその社会文化的要因に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Elderly Suicide and its Socio-Cultural Factors in the East Asian Countries

研究代表者

朴 光駿 (PARK, Kwang Joon)

佛教大学・社会福祉学部・教授

研究者番号：30351307

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円、(間接経費) 1,020,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、東アジア地域全体が著しく高い自殺率を示していることに着目し、高齢者自殺を死に関わる東アジアの社会文化問題としてとらえ、子女に対する過度の出費、自立しない成人子女の問題などは高齢者の自殺リスクを高める要因であることを証明するための研究である。また、高齢者自殺に対する仏教の態度を、仏教経典の内容分析を通じて明らかにし、仏教は自殺を禁止していない、という見解を批判的に検討し、仏教本来の教えに基づいた自殺観を提示し、それを現代的に解釈した。

研究成果は日本・韓国・中国の学術論文集に発表され、韓国(2013年)と日本(2012年)で単行本として発行されている。

研究成果の概要(英文)：The study attempts to clarify that the East Asian Value of the elderly constitutes the important cause of the elderly suicide of the East Asian Countries, China, Korea and Japan, where indicates the most highest suicide rate in the world. The living culture of the elderly in this area includes the excessive expenditure on the private education for their daughters or sons, and it makes their economic life unstable, and raises the risk of suicide of the elderly. And the study argues that the Buddhist thought on the suicide commitment is apparently not acceptable attitude against it. The outcomes of the study are published as several papers in the academic journal of China, Korea and Japan, and 2 books in Korea and Japan. And the 3 times special lecture on `Buddhism and the Elderly Suicide in the East Asian countries` are made for the citizen.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：国際情報交換 東アジア文化 東アジア自殺 高齢者自殺 自殺問題

1. 研究開始当初の背景

日本・中国・韓国の自殺率(人口10万人当自殺者数)は、世界最高水準であり、高齢者自殺はさらに深刻である。日本の場合、60歳以上の自殺者数は12,107人で全自殺者(33,093人)の33.7%を占めている(2007年)。韓国の80歳以上の高齢者自殺率は112.9(2008年)で、OECD 会員国の中で最高水準である。中国においても、自殺率は極めて高く、女性自殺者は世界自殺者の56%を占めるとの報告もある。60歳~84歳の高齢者自殺率(68.0)は平均自殺率の約3倍であり、特に農村高齢者の自殺率は82.8もある。

現実的に見ると、自殺問題には経済的要因や家族的要因などによって発生する。しかし、東アジア地域全体が著しく高い自殺率を示していることは、死に関わる東アジアの社会文化問題としてとらえる必要性を提起する。子女に対する過度の出費、自立しない成人子女の問題などは家族主義と密接に関わる問題であり、高齢者の自殺リスクを高める要因である。自殺防止に努める世界保健機構も認めているように、自殺率の高い地域は自殺を禁止する宗教がない地域であると解釈することができる。儒教文化、仏教文化の影響が強いとされる東アジア地域に自殺率が高いという事実は、儒教文化と仏教文化そのものに自殺リスクを高める要素があるのかという観点からの研究を必要とする。しかし、社会文化から高齢者自殺にアプローチする研究は乏しい。

2. 研究の目的

(1) 世界最高水準である東アジア(日本・中国・韓国)の高齢者自殺の状況、それに関わる高齢者の生活状況を明らかにすること

(2) 儒教の家族主義が子女に対する過度な出費、「子女との同居=高齢者の生活保障」といった安易な考え方を生み、それが高齢者自殺の遠因になっていることを証明するこ

と

(3) 「仏教は自殺に反対しておらず、それが高い高齢者自殺の一因である」という見解を批判的に検討し、仏教經典分析に基づいて、仏教の自殺観を明確にし、現代的解釈を行うこと

3. 研究の方法

本研究は3年間の研究として設計されている。日中韓の高齢者自殺の状況、成人子女の規模と生活実態の把握、自殺関連仏教經典内容の確認とその現代的解釈にかかる時間を考慮すると、3年が適切な研究期間と思われる。本研究は単独研究であるが、中国現地での訪問調査等のためには海外研究協力者を必要とする。

研究方法は「文献研究」と「聞き取り調査」を併用した。聞き取り調査の対象としては、東アジアの高齢者自殺問題の専門家、高齢者自殺防止に努める組織の関係者、中国の場合は研究調査データを蓄積している中国社会科学院人口労働経済研究所の研究者等である。

中国の場合、東北地方の延吉市を対象にし、高齢者福祉政策の責任部署である老齡工作委员会の主任はじめ関係者と面談し、高齢者の生活状況を調べるとともに関連資料を収集した。また、北京市自殺予防センターを訪問し、関係者との聞き取り調査を通じて中国自殺関連資料を収集した。

韓国の場合、基礎自治体と公益自治体とに分けて、高齢者自殺予防の取り組みを調査した。釜山市保健増進課の関係者に対する聞き取り調査、釜山市影島区自治センターの関係者に対する聞き取り調査も行った。

4. 研究成果

本研究は、東アジア地域全体が著しく高い自殺率を示していることに着目し、高齢者自殺を死に関わる東アジアの社会文化問題と

してとらえ、子女に対する過度の出費、自立しない成人子女の問題などは高齢者の自殺リスクを高める要因であることを証明するための研究である。「親から独立しない大規模の成人子女」の問題、すなわち中国のコウ老族、日本のパラサイトシングル、韓国の白手（ベクス）の問題を若者失業問題としてだけでなく、高齢者自殺のリスクを高める要因としてとらえた。また、高齢者自殺に対する仏教の態度を、仏教経典の内容分析を通じて明らかにし、仏教は自殺を禁止していない、という見解を批判的に検討し、仏教本来の教えに基づいた自殺観を提示し、それを現代的に解釈した。

(1) 高齢者自殺の規模と動向の分析

東アジアの高齢者自殺の現状について、主に「WHO Suicide Database」、日本と韓国については「OECD Family Database」を分析し、高齢者自殺の状況を明らかにする。中国の状況については幾つかの地域調査結果を総合的に分析した。

世界をいくつかの地域に分け、高齢者自殺の地域分布を明らかにし（WHOの世界自殺マップなどを参考）、高齢者自殺率には地域的共通性があることを明らかにし、社会文化的要因を重視した説明の必要性を提起した。

(2) 高齢者生活実態の分析

各国の高齢者生活実態調査を対象にし、高齢者自殺に影響を与える高齢者の経済問題、家族問題、介護問題などを明らかにした。各国の高齢者自殺に関する先行研究を収集し、分析する。特に東アジアの家族主義的特性が現れる家族関係、成人子女との関係に関する分析を行った。

中国での聞き取り調査の対象には自殺問題を管掌する衛生部の官僚、老齡科学研究中心の研究者などが含まれている。聞き取り調査を有効に行うために中国の関連研究者が

参加する諮問会議を開き、聞き取り調査の対象者の選定等に関する諮問を受けた。

高齢者自殺問題に対処する公的機関や民間団体を確認し、関係者に対象にし、自殺防止努力の内容、高齢者自殺の規模や原因に関する認識を確認した。

(3) 「親から独立しない成人子女の問題」の実態調査と分析

東アジア地域の深刻な共通問題であるこの問題を高齢者自殺のリスクを高める要因として捉え、その実態を明らかにした。中国の状況については、いわゆる「コウ老族」の調査を先行的に行ってきた中国老年科学研究中心を訪問し、最新のデータを入手するとともに、関連研究者を対象に聞き取り調査を行う。「コウ老族の増加の原因は何か、それを中国社会文化と関連して説明することができるのか」に関する意見調査である。

韓国のベクス問題については、関連報告書の分析とともに、研究者を対象とする聞き取り調査を行う。日本のパラサイトシングル問題に関して行った報告書等を分析し、その特徴と影響、原因を分析した。

(4) 儒教的家族主義の内容とその実態の分析

儒教の家族主義の原理と概念を明らかにする。現実社会で現れている家族主義の実態を明確にするために、中高年の経済生活と子どもへの支援の実態分析を行った。

教育費支出の規模、成人子女への経済援助の実態を明らかにし、そのような社会文化が高齢者の経済状況を圧迫する要因として働いていることを明らかにした。

子女と同居している高齢者に自殺が多いことの論理的理由が提示された。

(5) 「東アジアの宗教は高齢者の自殺を禁止していない」という見解の批判的検証

東アジア地域は歴史的に仏教の影響が強い地域であることから、高齢者自殺に対する仏教の態度を、仏教經典の内容分析を通じて明らかにした。

分析対象の仏教經典は初期仏教經典(いわゆる『南伝大蔵経』)とし、自殺関連内容を抽出し、それぞれの内容を現代的に解釈する。この点については、仏教学者の諮問を受ける。中国の場合は、中国社会科学院世界宗教研究所の研究員の諮問を受けた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

朴光駿、中国老人權益保障法 2012 年改正の意味と課題、社会福祉学部論集、査読無、第 11 号、2014、33~47

朴光駿、東アジア高齢者自殺と仏教、日本仏教社会福祉学会誌、第 44 号、査読有、2014、1~21

朴光駿、仏教の自殺観に対する社会福祉的解釈、韓国教授仏者連合学会誌、第 19 巻第 1 号、査読有、2013、167~201

朴光駿、比較社会政策の素材としての東アジア社会政策 制度研究を超えて、社会政策研究、第 5 巻第 2 号、査読有、2013、9~20

朴光駿、東アジア老人長期療養問題と市場化：韓国・日本の経験と中国への示唆、中国延边大学・韓国行政福祉学会共同学会論集、査読無、2013、25~37

朴光駿、文化的観点からみた東アジアの高齢者自殺、中国社会科学院論文集、査読有、2011 年 2 期、2012、57~67

[学会発表](計3件)

朴光駿、東アジアの高齢者自殺と仏教、第 47 回仏教社会学会基調講演、2012.9.1

朴光駿、韓国介護保険の財源構造と家族主

義：日本との比較、第 17 回社会経済国際シンポジウム、2012.8.17~18、中国河南省鄭州市

朴光駿、文化的観点からみた東アジアの高齢者自殺、日中韓三国における人口問題と社会発展国際シンポジウム、2011.9.24、中国北京、中国社会科学院

[図書](計2件)

朴光駿、良書院、韓国社会福祉歴史論、2013、1~331

朴光駿、法蔵館、ブッダの福祉思想、2012、1~320

[産業財産権]
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朴光駿 (PARK Kwang Joon)
佛敎大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：30351307

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

